

2020年1月

学校法人東放学園
東放学園音響専門学校 殿

東放学園音響専門学校
学校関係者評価委員会

2019(令和元)年度 学校関係者評価委員会報告書

1. 学校関係者評価委員

〔学校運営に関する有識者〕(委員長)

佐久間 義彦	学校法人東放学園 元理事 東放学園専門学校、東放学園音響専門学校、元校長 一般社団法人 日本ポストプロダクション協会 理事 一般社団法人 全国放送派遣協会 顧問 前専務理事
--------	---

〔就職先の企業および業界関係者〕

大和 靖典	アオイスタジオ株式会社 スタジオ技術部 ポストプログループ
-------	-------------------------------

〔保護者、兼、就職先の企業および業界関係者〕

福本 城二	株式会社 エス・シー・アライアンス 代表取締役専務
-------	---------------------------

〔高校の教員〕

竹内 一仁	東京都立王子総合高等学校 1年次主任 主幹教諭
-------	-------------------------

〔卒業生〕

菅原 英樹	株式会社パワープレイミュージック マネージャー 2003年 音響研究科 音楽著作権ビジネスコース 卒業
-------	--

2. 事務局

〔学校教職員〕

酒井 努	東放学園音響専門学校 校長
和田 一夫	同 教務教育部 部長
青柳 高広	同 学務管理部 部長
阿部 純也	同 音響技術科 学科主任
佐野 僚	同 音響芸術科 学科主任
久村 英一	同 学務管理部(書記)

3. 学校関係者評価委員会の開催状況

①2019年10月25日(金)17:30～20:00 東放学園音響専門学校 渋谷校舎 3A1教室

②2020年1月14日(火)17:00～18:30 東放学園音響専門学校 清水橋校舎 2S1教室

4. 学校関係者評価結果

評定基準

4	適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
3	ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
2	対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
1	全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

I. 重点目標について

【DO(中途退学などのドロップアウト)撲滅】(推進モデル校として)	
コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・ドロップアウトの撲滅は学校の永遠の課題である。 ・「撲滅」はきついので「減少」にした方が柔らかく取り組めるのではないか。 ・教職員が、学生との会話や接触を心掛ける。また、保護者との連携も必要になってくる。 ・DOの撲滅に向けて、学内に相談室を設置しているのは、学生や保護者にとって大変良い取組みである。 ・スクールカウンセラーによるメンタルケアに加え、クラスアドバイザーによる学生全員との面談など、きめ細やかな対応で、学生生活に自信が持てるような環境作りを継続して取組んで欲しい。 ・ドロップアウトしていく原因を、学生の立場になって考えているかどうかを今一度考えていく必要があると思う。学生は何にストレスを感じ、モチベーションが上がらないのかを対面式に親身になって対応するしかない。外部のカウンセラーより、先生と目を合わせて会話できればそちらの方が良薬になると思う。 ・教職員ではなく、現役の業界人が相談に乗っていくのも良いのではないだろうか。 ・将来に希望を見出せる取り組みが必要と考える。 ・単年度で終わらせぬよう継続して取り組んでほしい。 	3

【学習成果の可視化】	
コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目的や成果が可視化されると、学生が刺激され、良い結果になると考える。今後も継続して欲しい。 ・目標達成チェックシートによる確認は、学生にとっても教員にとっても、学習の成果が一目で分かるシンプルで良い取組みといえる。 ・学生のチェック内容を教員・講師が見逃さずに把握・活用して、学生の技能の習得・向上や自信へと繋げて欲しい。 ・今後、学生主体のシート作成を目指すのも良いと思われる。 	4

- ・あまり親切すぎるのも良くない。学生には自分の頭で考える習慣を身に着けて欲しい。
 - ・可視化の材料として(あくまでも参考程度であるが)目標達成チェックシートを運用することは良いと思う。但し、個人的には学校で学んだ技術的なことはほぼ役に立っていない気がする。身体に入っている、身についていないという感覚と、各会社によって手法が全く違うので、今、学校で教えていることは通用しない感を持った記憶がある。(35年前のことですが)
- 校内の授業にとらわれずに、できる限り外の現場に出してあげて経験を積ませ、帰ってきた時にレポート等を出させてフォローする機会を増やすべきと考える。
- ・目標達成チェックシートの導入は自分がどこまでできているのかがすぐに分かり、一つの目安になっている。とても有効であると理解する。ただ、できているのにシートに○を付けられない学生がいるとのこと。自分の能力に自信が無い現れである。このような学生に別の意味での指導をする必要がある。
 - ・実行していることは、わかりやすくとても良い。ただ、できていない項目について、親身に解決していくことが必要なのではないかと考える。

【カリキュラム改善(アクティブラーニング化への取り組み)】

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・専門学校のカリキュラムの最大のポイントは、同業他校をリードして時代の要請に応える一步進んだカリキュラムである。 ・教員も常に時代と向き合って、業界研修などに積極的に参加することを望む。 ・数年後のアクティブラーニング世代が入学してくる為の形からの取組みではなく、現在の在校生が自ら考え深い学びへと繋がるように、早急に授業の質を変えていく検討を始めるべきである。また、知識を与えるだけでなく、学生の思考力や判断力を伸ばし、表現力も豊かになるよう、受け皿となる学校側にも教員・講師の意識や行動の改革が必要である。 ・音響技術科におけるアクティブラーニング化とは、例えば自主コンサートの開催が考えられる。ただし、その際に俯瞰で見守る PA(コンサート音響の技術者)のプロが絶対に必要で、このスタッフは弁が立つことが必須である。コンサートの開催決定を受けて学生達が立案し、回線図等も書き、マイクも選定、全てを自分達チームで行うような実習が組めたら良いと思う。 (学生達は何が解らないかが解らないので)この際に見守りながらも適切な教えを説けるプロが必要となる。(無言での見守りはダメ) ・自主性とは何かを話し合い、具案化するプロセスが必要である。 ・機械の操作は会社ごとに違う、それは上司も先輩も分かっているのでそこは問わないが、本人の音楽センス、表面的なものではなく、これまで培ったものが問われる。教える側も、それ相応の素養がなければならない。 ・今の時代、学生・生徒が自ら考える能力を養うために能動的に授業に参加するアクティブラーニングの導入を進めている。理想としては理解できるが、科目の性質やその単元においてこの方法が適する・適さないがあり、授業の内容をよく考え教材研究をする必要がある。全ての科目、全ての単元で利用できる方法ではないので事前に研修などで良く理解する必要がある。 ・まだまだ浸透していないアクティブラーニングだが、確実に実施していくことが大事であり、講師への啓発も必要である。 	3

【その他、授業評価の促進と有効利用】		
コメント	評定	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートを基に、面談などを進めながら、学生にも授業内容への関わりを意識させるのは良い取組みといえるが、評価アンケートの結果を学生側からの一方的なものとせず、教員・講師が評価を精査しながら慎重に取り扱う必要はある。 ・評価アンケートで指摘された不平・不満な項目や改善点などは、原則開示して具体的な対応を学生にフィードバックしなければ、表面的な評価アンケートに終わってしまう危うさがある。 ・全ては学生も先生もモチベーションアップのためでしかないはずで、評価の種類や目的を再考察し、「何のために評価をしているのか？」を再度考える。短所を克服するための評価というよりは、長所を伸ばすための評価とすべきである。項目を多くするのではなく、文章形式を多く取り入れて意思を素直に書いて評価とした方が良いのではないか。 ・学校において授業評価はどれだけ授業内容が理解しているかを知るためにも必要である。しかし、学生が評価を付けるときに、教員に対する好き・嫌いなどで評価させないようにあらかじめ評価用紙の質問など工夫する必要がある。人気投票的になると何も意味をなさない。 ・学生へのアンケートや個人面談は定期的に実施し、その結果をもとに改善していくことが重要である。 	3	

II. 評価項目別取組状況について

基準1. 教育理念・目的・育成人材像

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・理念はわかり易く具体的な方がいい。「明るい挨拶」など、キャッチコピーのように親しみ易い方が良いのではないか。 ・学園の教育理念に、学校のホームページ上では簡単に辿り着けないので、より入学希望者や保護者がアクセスし易くするレイアウトなどの検討や、併せて教育理念及び、学校・学科のテーマやコンセプト等を、平易かつシンプルにするなどの工夫も必要ではないか。 ・学園の理念とは別に、各学校の一年を通してのスローガンを掲げるのも一つの手段として考えられないか。 ・学科戦略表による状況把握と改善点の提起は、教育理念の実践や教育方針を教職員に意識・浸透させる具体的で分かり易い取組みである。 ・社会人としての人間性(積極性・協調性・コミュニケーション能力)を備えた人材を育成・輩出して欲しい。 ・校長が代わったのであれば、東放学園全体の理念の他に、酒井校長自身の言葉で東放学園音響専門学校としての理念を学生や先生にも解りやすく提示することが大事なのではないか。 ・学科戦略表の作成により学校の具体的な目標や考え方を明確にした。今回の評価委員会ではたくさん書いてあり、かえってわかりにくいという意見もあったが教育理念や教育方針を示すのはとても大事であり教職員に周知するにはこのようにまとめるのがわかりやすいと思う。育成人材像に関してもこの学科戦略表からしっかりと定められていることが読み取れる。 ・基本的には、全て努力していると思うが、分かりづらいと伝わらない。 ・一番求められている事は何か、関連業界の現場でのリスニングは常に必要である。 ・2年という短い期間で、個々の学生を伸ばせるのは何かを考えたい。 	3

基準2. 学校運営

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・IT化が進んでいる昨今、学生のためになる情報発信と学業・事務の効率化の再考を望む。優先順位をつけて、いらないものは切るという考え方も必要である。 ・昨今の社会情勢から、ハラスメントに対する教職員・講師の意識改革は早急に進めるべきである。 ・学生との対話時間を確保出来るように、今後の教職員の働き方も検討・対応したほうが良いのではないか。 ・教職員の働き方として、平日の休み(振替休)や半日休・時間休の活用も有効である。 ・学生支援の情報システムは充分整備されているが、安全稼働のためにはセキュリティ対策を継続的に行う必要がある。 ・運営に関して、例えば我々への応対も含めて先生方が非常に頑張っている印象を受ける。先生と学生が Win-Win になれるように今後も頑張って頂きたい。 ・ハラスメントに関してはどこの職場においても「0」にする方向であり、様々なハラスメント対策は絶対に必要である。働き方改革に関しても同様であるが、色々と仕事を工夫して余裕をもたせる必要がある。 	4

基準3. 教育活動

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・限られた教育資源で広く対処するのは困難を伴うので、目の前の重点課題のクリアを優先事項にする。 ・教職員全員参加の研究紀要、論文、業務レポート提出を望む。 ・目標達成チェックシートを用いたチェックは、学生・教員・講師の各々が現状を把握でき、学生毎に応じた対応が取れる有効なツールといえる。 ・1年入学時から就職を意識させるキャリア教育を、会社見学・インターンシップへと繋ぎ、学生の就業意欲を向上させて欲しい。 ・インターンシップや現場研修などの制度は、より柔軟に対応しても良いのではないか。 ・机上授業に関しては不明なので、意見は言えない。ただし先生方の取り組みに関しての姿勢は前向きと感じて好感を持っている。 ・実習スタジオに関しては Analog 卓を導入してあるが、正直今どきではない。音の流れを知るには Analog 卓での授業もある程度はありだと思うが、Digital 卓をベースに音作りを勉強しないと現場では全くと言って良いほど通用しない。教育目的にある時代に合ったカリキュラムという点に於いても改善の余地がある。 ・最先端の機材を追求すると、きりがないというところもある。 ・基準1のところでも書いたが、学科戦略表の作成により学校の理念を明確にしており、それをカリキュラム(教育課程)に取り入れていることがわかる。また、キャリア教育においても細かく丁寧な指導を行っており、今後はインターンシップなども積極的に利用し、就職率の向上につなげる方向である。さらに東放学園キャリアサポートセンターの積極的な働きにより、現在の求人数も高い水準を維持しているようだ。 ・教員は世間の流れを反映できるよう努力していると思う。 	4

基準4. 学修成果

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップなどの仕組みをより柔軟にして、積極的に推奨すべきではないか。 ・クラスアドバイザー・進路指導担当・キャリアサポートセンターの連携したキャリア教育の取組みで、学生の就業への意識を更に向上させて欲しい。 ・企業説明会の開催時期を早める取組みは、実際に学生の就業意識向上に役立っていると企業側としては感じる。 ・希望職種以外の周辺職種の情報提示なども、就職率の向上に繋がる良いアプローチといえる。 ・「挨拶を基本としたコミュニケーション重視の教育」、素晴らしい言葉であるが、ロビーですれ違う学生には今一つ霸気が無いと感じられた。弊社も含めて明るく霸気のある学生が入社基準のターゲットになる事は間違いない。 ・資格に関しては会社に入ってからでも遅くはないが、職種に合わせた資格は事前に取得しておくことに越したことはない。 ・就職率も高く指導が行き届いている。卒業生の社会的評価をかなり把握されていると感じる。 ・就職率をあげるために、企業との対話が必要である。人と人の仕事なので、空気を読む力が必要である。 ・PC、デザイン関係の資格があると良い。 	3

基準5. 学生支援

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・広範囲のテーマだが学生・保護者・企業・OBとのさらなる深い連携の再構築を望む。 ・今後増える中国・台湾からの留学生に向けて、留学生支援室の入学から進路・就職までの幅広い支援体制を更に充実させる必要がある。 ・中途退学につながりそうな学生に対しては、先ずはクラスアドバイザーによる状況把握や対応・支援で、退学者軽減に努めていって欲しい。 ・経済的な支援としての奨学金制度に於いては、貸与型奨学金の卒業後の返済が、就職後の経済的負担になっている場合も多く、事前の相談やアドバイスなどで丁寧にケアしながら、今後は給付型奨学金制度の導入を増やすなどの検討・対応が必要である。 ・専門のカウンセラーは意外と相談しにくいという弊社の実績がある。 ・学生と社会人がイコールになるとは言えないかも知れないが、日常は先生と学生、先生同士の1 on 1ミーティングが望ましいと思う。当然のことながら、直属の上司や先生と上手く行かないと相談出来ないこともあるので、インターネット状(蜘蛛の巣状)に相談の窓口があると良い。 ・東放学園の留学生は優秀である。留学生に関しては色々と問題があるようだが、学校側は留学生相談など対応されている。奨学金の拡充が専門学校には必要である。 ・留学生の就職は、企業へメリットを伝えることが必要である。 ・その他、カウンセリングや、経済的な支援の努力はしている。魅力的な案を出していくことが重要である。 	4

基準6. 教育環境

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・限られた予算でより有効的な施設運営を望む。 ・専門学校は絶えず実社会との接点を持つのがテーマであり、あらゆる手段を講じて学生に現実を知つてほしい。 ・機材や設備の更新・拡充は業界の動向を見ながら適宜行うのが望ましいが、学校建物内のバリアフリー化やロビースペースの拡充・トイレのウォシュレット化など、アメニティ面の充実も学生や保護者からの評価の対象となるので、速やかな対応が必要である。 ・学外の関連業界の動向を知るために、インターンシップや企業現場研修を強化させ、展示会やセミナー等へ参加する機会を創出する工夫も必要である。 ・実習スタジオのコンソールやスピーカーに関しては早急に改善した方が良いと感じた。予算的に難しいのであれば、弊社も含めたPA業者の機材を実習時にレンタルしてでも第一線で使われている機材を触り、体験できる方法をとるべきである。 ・インターンシップに関しては更に積極的に行うべきで、私感だが、他の学校に遅れをとっていると感じる。 ・学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制は整備されているようだが、インターンシップは実質的な活用が少ないとのこと。基準3でも書いたように、今後は積極的に企業へはたらきかけインターンシップ等の受け入れを多くしていく必要がある。実習時間の制約なども幅を持たせて検討すべきである。 ・施設・設備面に関しては高校生などには学校見学の際にトイレなどの施設も意外に見ている。細かいところにも気を遣つて整備する必要がある。 	3

基準7. 学生の募集と受け入れ

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・日本の少子化はますます深刻であり、海外、特に東アジアの募集に力を入れるべきである。 ・卒業生子弟への更なる優遇を望む。 ・学校のホームページ内の動画によって、学科での授業内容、実習内容やイベント等も分かり、学生生活がイメージし易くなっている。 ・オープンキャンパスや体験入学等のアプローチも、入学後のミスマッチ・中途退学を減らす為には有効である。 ・韓国放送映像機器展への東放学園ブースの出展などで、卒業後の日本の業界の就職状況などを留学希望者に向けて発信する取組みも大切である。 ・時代に合わせて検討していく姿勢は良い。 ・昨年度、私は本校(高等学校)の進路主任をしていたが、東放学園の学校説明に関しては何度も来校していただき、丁寧にご説明していただいた。資料などもわかりやすく作製されており工夫がみられる。本校(高等学校)の現在の学校説明会では中学生とその保護者に説明するのに教員だけではなく司会など重要な役目に生徒を使って説明させている。全て教員でやるより在校生の生の声を活かして説明することで中学生とその保護者に伝わっていくことが多いと感じており、好評である。東放学園はエンターテインメントの学校であるのでより学生さんを起用した学校説明会に色々な可能性が見られると想像できる。 ・もっと簡単に応募できる窓口があつても良いのではないか、模索をしていくことが大事である。 	4

基準8. 財務

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> 専門学校の使命のひとつは時代の変遷の最先端を常に読み切ることで、経営陣はそのための開発予算を常に計上しておくべきである。新学科は、現在の学科を常に深堀・注視していくとヒントが見えるかもしれない。 情報も公開されており、特に問題も無く運営されている。 過去3年間の財務分析をしているということで、制度的には問題ないと思う。 自己評価報告書より収支バランスや借入金がないことから財務基盤は安定していると判断できる。 	4

基準9. 法令等の順守

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ホームページ上で授業計画や自己評価報告書及び、学校関係者評価報告書なども公表されており、順守に向けて努力している。 個人情報の保護のためのセキュリティ対策は、今後も継続して行わなければならない。 ハラスメントに対する教員・講師の意識改革はもとより、学生間での意識の向上も必須となってくる。 情報の可視化が出来ているのであれば問題ないと思う。 自己評価報告書より関係法令などに基づく適正な学校運営を行っている。 前向きに努力している。 	4

基準10. 社会貢献・地域貢献

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> 地域の小・中学校の児童を対象に「音響一日教室」のようなイベントを考えてみてはどうか。 社会貢献・地域貢献の固苦しいイメージを、身近な学校周辺や通学路の週1回程度の清掃活動や、地域のお祭りなどのイベントに参加させたり、グループ(数名から数十名)でスポーツボランティア活動などに取組むなど、学生の意識を徐々に変えていけるよう様々な貢献方法を提案すべきではないか。 具体的な行動を学校の内外から可視化できるようになれば良いと思う。 自己評価報告書より留学生の受け入れなどから国際交流に関しては取り組んでいることがわかる。社会貢献および地域貢献の機会は少ないようで今後の課題となっている。ボランティア活動に関する同様で実績は少ないようだが、学校の特色を活かした学生主体の活動をよりしていく必要がある。得意な専門分野である音楽やイベント関係でボランティア、地域貢献を行うことが有効であると思う。 高校などの文化祭等での活動が良いのではないか。 学校近隣のゴミ拾いは是非、取り組んでほしい。 	3

III. 所感

コメント

- ・教員 OB としては東放学園音響専門学校の良さと健在さが改めて分かった。「卒業」して改めて思うのは、本校が、どの専門学校にも増して OB を大切にして関わりを持っていることである。学校法人東放学園が設立した4つの専門学校のうち、音響専門学校だけでこれだけの学生数がいるのは教職員や関係者の不断のご努力だと思う。これからも学生にとって、OB にとって、社会にとって欠かせない専門学校になるよう望む。
- ・学科戦略表の策定は、より具体的に学生に対応して行く為に、教職員の意識を統一する有効な取組みである。目標達成チェックシートと授業評価アンケートを上手く活用して、学生にとって「深い学び(自信・充実感)」、「不満の払拭(満足感)」、「教師・講師との信頼関係(安心感)」を実感できる学生生活へと繋げていただきたい。
- ・学生の人間力(協調性・コミュニケーション能力)を養う為に、貴重な社会人経験が積めるインターンシップや現場研修などの機会をより多く提供出来るよう、学校側にも関連の業界・企業との幅広いネットワークを積極的に構築していただきたい。
- ・このような学外の意見書はとても重要だと思うが、先日の2時間程度の会議のみで外部の人間の意見を聞くことは適切なのかは疑問である。色々な立場からの目線を再度感じ取れれば、今ある問題や進むべき方向のヒントに役立つこともあるのではないかと感じる。ただし、外部の人間が文面に関連して4~1の数的評価をすることには個人的に違和感がある。先生方がそれぞれの文面を見ていただき、東放学園音響専門学校として判断していただくための資料であり、数値を見るとこの数字に意外と引っ張られる懸念があるのではないか。
- ・「今の若者は…」の発想は全くナンセンスで、若者に今も昔もない。先生方の取り組みがごまかさない、嘘をつかないものであれば学生にも必ず伝わると思う。
- ・最初の重点目標の項目で取り上げられていたドロップアウト撲滅の取り組みに関して貴校はドロップアウト撲滅の推進モデル校であり、今後、この難しい問題をどのようにして解決の方向を持って行くのかとても関心がある。今後もドロップアウト撲滅の取り組みに私自身が積極的に協力できるよう情報共有をしたいと考える。
- ・専門学校においても技術とともに“人”をしっかり育てることが大切であると考える。自立した大人として社会に出るために、人格教育を進めることができドロップアウト撲滅にもつながるのではないかと考える。
- ・実際、難しい問題が多く、思いつくことはやられていると思う。学生とのコミュニケーション等をうまくできれば良い。
- ・このような会議だけではなく、他でも気軽に話せる場があると良い。教員や学生のモチベーションが高くいられる場所であってほしいと思う。

以上